

編集・発行 海老名市役所 市長室
〒243-0492 神奈川県海老名市勝瀬 175 番地の1
☎046(231)2111(代) ㊟046(233)9118
URL http://www.city.ebina.kanagawa.jp

「広報えびな」は、市シルバー人材センターの会員が各家庭へ直接配布しています。お手元に届かない場合はご連絡ください。
㊟ 同センター (☎292・0303)

世帯と人口

(7月1日現在)

世帯 47,677
人口 124,135人
男 63,262人
女 60,873人

㊟ 行政経営課
(☎235・4698=直通)

広報えびな

地域を守ることを目標に

▶最優秀賞を受賞した第10分団の演技



平成18年度海老名市消防操法大会結果

【団体の部】▷最優秀賞 第10分団(杉久保・上河内地区)▷優秀賞 第13分団(中野地区)、第6分団(下今泉地区)、第7分団(上今泉地区)
【個人の部】▷指揮者 第10分団・藤澤一人(杉久保・上河内地区)▷1番員 第7分団・望月敦史(上今泉地区)▷2番員 第13分団・平本直也(中野地区)▷3番員 第10分団・高橋弘一(杉久保・上河内地区)▷4番員 第13分団・中島敦(中野地区)。

※県消防操法大会が7月26日に開催され、市代表として第14分団(門沢橋地区)が出場しました。

火災をはじめ、風水害・地震などの大規模災害時、第一線で活躍するのが地域の消防団です。普段は自分の仕事をこなし、災害発生時には真っ先に現場へ向かう、自分のまちを守るために集まった組織です。今回はその消防団を紹介します。



木内団長

消防団の歴史は古く、江戸時代の町火消しが始まりです。戦争中は警防団と呼ばれ、戦後、自治体の消防署が出来るまで防災機関の中心でした。市の消防団は、団長以下、15の分団で組織され、今年7月現在、215人の団員が活動しています。団長の木内修さんは、「消防団は地域のもの。団員は、『自分のまちは自分で守る』という、1つの目標に向かって一致団結しています」と話します。

活動は、訓練、火災発生時の消火活動のほか、月1回の消火栓・防火水槽などの点検、春・秋の火災予防運動や歳末特別警戒での夜間巡回など。また、訓練は、団員が自分の仕事を終えた主に夜間に行います。回を重ねていくことで、団員同士、相手の考えが分かるようになり、災害発生時に「あうんの呼吸」で行動できるようにすること。

「海老名の消防団の操法技術は水準が高いですよ」と胸を張る木内さん。火災現場では、消防署と協力し、団員に指示を出します。指示するたびに「地域の方はもちろん、団員の無事も祈っている」と言います。

先月9日に「海老名市消防操法大会」が開催され、各分団が消防器具の操法について、日ごろの訓練の成果を競い合いました。



藤澤分団長

今年の大会で最優秀賞を受賞した第10分団(杉久保・上河内地区)の分団長・藤澤一人(かずと)さんは、受賞の要因を「毎年選手が変わるたびに熱心に教え合っています。チームの技術レベルは絶対に落とさたくないという気持ちがとても強いためではないか」と分析します。

また、「一番大事なのは、火事を出さないこと。これからは防火活動にさらに力を入れていきたい」と今後の意気込みを語ってくれました。

地域住民の生命や財産を守るため、消防団員の役割は重要です。また活動を通じて「職業や年齢・地域を超えた人のつながりが広がった」「仕事や趣味の仲間とはまた別の、かけがえのない仲間ができた」とも。今回話を聞いた2人から活動のやりがいと熱意が語られました。

新規団員を募集中です

消防団では、新規団員を募集しています。お問い合わせは、近くの分団または消防本部消防総務課へ。㊟ 同課 (☎231・0555)。